



# 絵本でつながり、にぎわいが生まれる 「絵本のまち板橋」

板橋区は、絵本にかかわる国際的なネットワークを持つ板橋区立美術館と、世界各国の絵本を所蔵するいたばしポローニヤ絵本館が併設された板橋区立中央図書館があり、印刷製本業が集積しているという区の独自性を活かし、「絵本のまち板橋」を区のブランドとして展開・推進しています。文化・産業・観光振興や教育活動などさまざまな分野において絵本の魅力を活かした取組を進め、絵本を通じて交流と活動が生まれるまちをめざします。



## ◆イタリア・ポローニヤ市との交流から始まったプロジェクト

### 3つの視点で展開する「絵本のまち板橋」事業

板橋区では、板橋区基本構想で掲げる将来像「未来をほぐくむ緑と文化のかがやくまち、板橋」の実現に向けて「板橋区基本計画2025」を策定し、この施策を着実に推進していくアクションプログラムとして「いたばしNo.1実現プラン2025」を策定しています。その重点戦略の柱の1つである「ブランド戦略ビジョン」(板橋の魅力が定住と交流を促すまち)の展開として、「絵本のまち板橋」を位置付けています。

具体的には、区立美術館におけるイタリア・ポローニヤ国際絵本原画展の

開催や区立中央図書館の外国語絵本の蔵書などを活用した絵本事業の充実、絵本関連事業連携・総合発信、印刷製本業の集積など、絵本に関する資源を

活かし、絵本文化のさらなる展開・発信を区全体で推進していきます。このように絵本と産業的・文化的関わりが深い板橋区で、あらゆる人が(子どもから大人、絵本をつくる人から楽しむ人など)、それぞれの関わり方で(読む、学ぶ、創る、届けるなど)、絵本でつながり、にぎわいが生まれるまちをめざしています。

「絵本のまち板橋」事業は、絵本文化を享受する「利用者」、絵本・絵本文化を創造する「創作者」、絵本が持つ力を区政に活かす「区」による絵本の

魅力・特徴の体現」の3つの視点で展開していき、それぞれの視点が相互に作用し、刺激し合うことで、相乗効果を図ります。



第1回ポローニヤ国際絵本原画展

絵本のまち板橋



公式 HP



Instagram

## 板橋区立美術館で開催した ポローニャ国際絵本原画展

「絵本のまち板橋」事業が始まるきっかけとなったのは、昭和56（1981）年に板橋区立美術館で開催された「第1回ポローニャ国際絵本原画展」です。この原画展はイタリア北部の古都ポローニャで毎年開催されている絵本原画コンクール入選作品による展覧会で、新人イラストレーターたちの登竜門としても知られています。毎年世界中からたくさん応募があり、厳正な審査が行われます。このコンクールでは、日本人イラストレーターも活躍しています。

本展は、日本では1978年より兵庫県の西宮市大谷記念美術館で開催されていましたが、関東では板橋区立美術館が初の開催となりました。当時は絵本の展覧会を美術館で開催することは一般的ではありませんでしたが、同年に区立美術館で開催した美術展の中でも動員数の多い展示となり、成功を収めました。その後の平成元（1989）年には、区立美術館がこの原画展の日本巡回展の幹事館となり、現在も継続しています。

## ポローニャから絵本の 寄贈を受けて絵本館を開館

区立美術館がポローニャ国際絵本原画展の日本巡回展幹事館となったことをきっかけに、板橋区とポローニャ市の間で相互訪問が始まり、交流が深まるようになりました。平成5（1993）年からは「ポローニャ児童図書展」事務局から板橋区に絵本が寄贈されるようになり、「ポローニャ・ブックフェア in いたばし」がスタート。平成6（1994）年からは、英語の絵本翻訳コンテストである「いたばし国際絵本翻訳大賞」が始まりました。（次年度よりイタリア語部門も追加）

「ポローニャ児童図書展」事務局から板橋区へ寄贈された世界各国の絵本が80カ国・2万冊以上となり、平成16（2004）年9月、いたばしボランティア・NPOホール3階（板橋区本町24-1）に「いたばしポローニャ子ども絵本館」をオープン。ポローニャから寄贈された世界の絵本を中心に収蔵・展示して、訪れた方が自由に閲覧できるようにしました。この絵本館は、現在の「いたばしポローニャ絵本館」の前身です。

## イタリア・ポローニャ市と 友好都市交流協定を締結

板橋区は、絵本を通じたポローニャ市との交流を経て、交流25周年に当たる平成17（2005）年、ポローニャ市との間で友好都市交流協定を締結することとなりました。調印式はイタリアのポローニャ市で行われ、板橋区からは区長のほか、区議会と産業界の代表者が列席。調印式では板橋区長とポローニャ市長が、長年にわたる交流に携わった方々への感謝と今後の交流の推進を確認するスピーチを行った後、両都市を代表して協定書に署名し、今後は、絵本を通じた交流のほかにも、文化交流、産業・商工業交流、市民交流の各分野で、市民レベルの交流を推進していくことについても合意しました。

なお、2005年は日・EU市民交流年であり、この友好都市交流協定締結は、「2005年日・EU市民交流イベント」として登録されました。同年に開催した板橋区民まつりでは、ポローニャ市との友好都市提携を記念して、区立グリーンホールでイタリアフェアを開催しました。



板橋区・ポローニャ市「友好都市交流協定」締結の様子



「いたばしポローニャ絵本館」の前身  
「いたばしポローニャ子ども絵本館」



イタリア・ポローニャ市の風景

# ◆区民とともに展開する「絵本」をキーワードにしたさまざまな取組

## 小中学生を対象とした 絵本づくりワークショップ

「絵本のまち板橋」事業におけるさまざまな取組を紹介します。板橋区内の区立図書館では、区内在学・在住の小中学生と区立中学の中学生を対象とした絵本づくりワークショップを実施しています。絵とストーリーを自分自身で考え、オリジナルの絵本を作成します。

小学生向け絵本づくりワークショップは、区内に11館ある区立図書館を会場に全3回。おはなしをイメージして自由に描きます。中学生向け絵本づくりワークショップは、中央図書館と区内製本会社を会場に全4回。絵本づくりの講義、原画・原稿の作成、製本作業体験など、区内の印刷・製本企業の協力により本格的な絵本制作が体験できます。完成した作品は、中央図書館で行う「いたばし子ども絵本展」で展示し、その後中央図書館の蔵書となります。

## 「おはなし会」で絵本や 紙芝居を読み聞かせ

中央図書館の「おはなしの部屋」では、毎週水曜日の午後3時30分から「おはなし会」を開催しています。運営は、図書館サポーターの名称で登録している区民ボランティアの皆さん。絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊びなどを実施しています。また、外国語の絵本や外国の昔話などを読み聞かせする「外国語おはなし会」は毎月第1日曜日（英語）と第3日曜日（そのほかの言語）の午後2時から、赤ちゃん向けの絵本の読み聞かせや手遊びを行う「かるがもおはなし会」は毎月第2木曜日と第4土曜日の午前10時30分から実施しています。

また、中央図書館では、姉妹図書館であるポローニヤ市立サラボルサ児童図書館と連携し、お気に入りのぬいぐるみに図書館でお泊まりしてもらおう「ぬいぐるみおとまり会」を令和4年5月の10月に開催。その様子をSNSで随時発信しました。

## 絵本制作の専門家から学ぶ 「夏のアトリエ」

区立美術館では、ポローニヤ国際絵本原画展が開催される時期の恒例イベントとして、「夏のアトリエ」を開催しています。絵本づくりの第一線で活躍する専門家を講師に、イラストレーター約20人が参加するワークショップで、5日間連続で開催されます。これまでに国内外の編集者や作家など多数の方を講師に招き、ベテランイラストレーターから若手まで、多様な受講者が参加しています。人気の講座で、講師からは技術だけではなくさまざまなことを学ぶことができ、他の参加者との関わりからも新しい刺激、新しい発見を得る機会となっています。これまでに何名ものクリエイターが日本中、世界中に活躍の場を広げ、この講座をきっかけに出版された絵本も少なくありません。昨年は、2023ポローニヤ展審査員のシドニー・スミス氏が講師を務めました。



絵本づくりワークショップ（製本作業体験）



おはなし会



夏のアトリエの様子

## 親子で造形あそびを楽しむ「こどもアトリエ」

区立美術館では「夏のアトリエ」のほかに、3歳から小学生の子どもとその保護者を対象に、親子で造形あそびを楽しむ「こどもアトリエ」という講座も開催しています。絵本作家、アーティスト、デザイナーなど、さまざまなジャンルで活躍する講師陣を招いて行うワークショップです。1日に2回、同じ内容で開催しています。昨年



こどもアトリエの様子

12月にはイラストレーターでデザイナーの前川明子さんを講師に招き、板ダンボールを使って写真や絵を飾るための額縁を作りました。

## 区内のお店が展覧会場に！「ポロニーヤ絵本さんぽ」

ポロニーヤ国際絵本原画展の開催期間中に、板橋区内とその周辺で「ポロニーヤ絵本さんぽ」という関連イベントが開催されており、板橋区はパンフレット制作等の広報面で協力しています。カフェ、レストラン、書店などが展覧会場となり、ポロニーヤ展の入選者を中心に、絵本やイラストレーションの展示やイベントが開催されます。

板橋区では、「絵本のまち板橋」事業を今後さらに推進していきたいと考えています。そのためにはさまざまな側面から「絵本のまち板橋」という言葉を浸透させていくことが大切です。政策経営部ブランド戦略担当課が中心となり、大学や企業、大使館、個人のクリエイターなど、これまでは直接つながりしなかったステークホルダーとも連携をして、この事業を展開していきます。

## いたばしポロニーヤ絵本館

板橋区立美術館で「ポロニーヤ国際絵本原画展」を開催して以来、板橋区とポロニーヤ市は絵本を通じて交流を深め、平成5（1993）年からは「ポロニーヤ児童図書展」事務局より海外絵本の寄贈が始まりました。平成16（2004）年9月、寄贈された海外絵本を直接手に取れる施設として「いたばしポロニーヤ子ども絵本館」が開館し、その後の令和3（2021）年3月、板橋区立中央図書館内に「いたばしポロニーヤ絵本館」として併設移転。世界約100カ国・70言語・3万冊の絵本を所蔵しています。



東武東上線「上板橋駅」北口より徒歩7分  
国際興業バス「教育科学館」下車徒歩3分  
住所：板橋区常盤台4-3-1（中央図書館併設）  
TEL：03-6281-0560  
開館時間：9時～20時  
休館日：第2月曜（祝休日の場合は翌平日）、月末（3月を除き土・日曜・祝休日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月4日）、特別整理期間  
入館料：無料  
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/library/bologna/index.html>



いたばしポロニーヤ絵本館の館内



Instagram



Facebook



X

## 板橋区立美術館

昭和54（1979）年5月、東京23区初の区立美術館として開館。令和元（2019）年6月、大規模改修を終えてリニューアルオープンしました。江戸狩野派をはじめとする近世絵画、大正から昭和初期の前衛美術、板橋区ゆかりの作家作品を中心に収蔵。江戸文化や池袋モラルパルナスを広く紹介する展覧会を開催し、さらにイタリア・ポロニーヤ国際絵本原画展をはじめとしたイラスト、デザインに関する展覧会も開催。また、これらに連携した講演会やワークショップも行っています。



板橋区立美術館の外観

都営三田線「西高島平駅」下車徒歩約14分  
東武東上線「下赤塚駅」、東京メトロ「地下鉄赤塚駅」下車徒歩約24分  
【東武東上線「成増駅」北口から】  
北口1番バスのりばから「赤02」赤羽駅西口行き「赤丸（丁目）」下車、徒歩約9分  
または北口2番バスのりばから「〔増17〕区立美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車（1時間に1-2本程度）  
【都営三田線「高島平駅」から】  
西口2番バスのりばから（1時間に1-2本程度）  
【増17】区立美術館経由 成増駅北口行き「区立美術館」下車

住所：板橋区赤塚5-34-27  
TEL：03-3979-3251  
開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）  
休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始。※館内整備のため臨時休館あり。  
観覧料：常設展示室はなく、展覧会ごとに異なる。  
観覧料は無料。特別展示観覧料は一般600円、大学生450円、高校生450円、小中学生250円  
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>



Facebook



X